

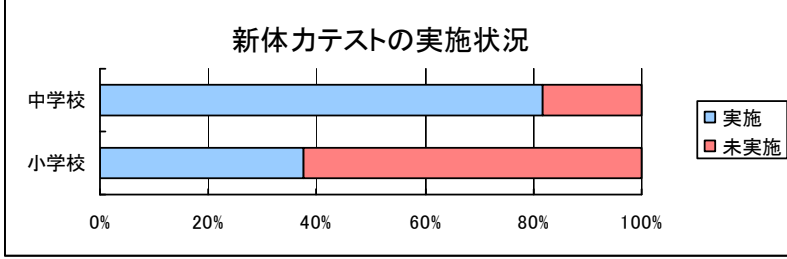
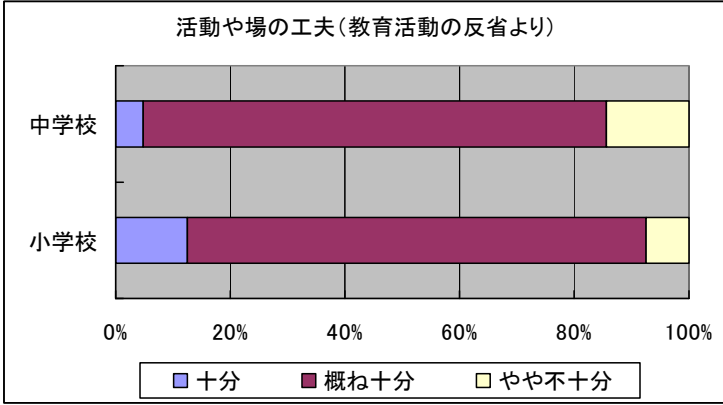
重点7 健康・体力の増進 / 1 体力の向上

ねらい

運動することが人間形成にとって重要な意味をもつという共通理解のもと、教育活動全体を通して運動に関する計画を立て、進んで運動に親しむ子どもを育てます。

現状

- 「運動することの楽しさや心地よさを味わわせるために、活動や場の工夫をすることができた。」について十分に達成できた、概ね十分に達成できたと回答した学校は全体の9割を占めています。
- 小学校では、運動会や遠足などの行事の他に、業間を利用して、なわとびや駆け足などに取り組んでいる学校もあります。また、外遊び週間や全校外遊びの時間を設けて、運動の日常化を図る取組を進めている学校もあります。
- 中学校では、授業のはじめに、一定距離を走ったり、腕立て伏せ・腹筋・背筋の補強運動を取り入れたりして体力向上に努めています。
- 体育科の授業では、すべての学校が課題解決的な学習に取り組んでいます。また、子どもたちが夢中になりながら、一生懸命に体を動かすような授業を行っています。
- 子どもの姿「体力面」(P9)にもあるように、新体力テストでは、全国平均に比べて同程度または、やや下回る結果となっています。
- 新体力テストを実施している学校は小中合わせて33校あり、そのうち、毎年実施している学校は15校あります。



課題(今後の方向)

- 地域や学校の実態に応じた体育的行事及び、休み時間を活用した運動遊び等を計画的に実施するなど、運動の日常化を図る取組をさらに進めます。
- 体力を高める運動を年間指導計画の中で計画的に実施したり、体ほぐし運動の位置付けや行い方を明確にしたりして、体づくり運動の充実を図ります。
- 子どもの発達段階に応じて「わかる・できる・楽しい」授業づくりを推進します。
- 幼稚園・小学校・中学校が学びの一体化等で、それぞれの子どもが出合う運動や行い方などの情報交換を行い、授業に生かします。
- 新体力テストを活用しながら、子どもが自己の体に関心をもつようにするとともに、活用方法を工夫して体力を高める取組に生かします。